

基本情報

指標番号
2046

名称
大腿骨頸部骨折における早期リハビリ開始率

分母
大腿骨頸部骨折で入院し、大腿骨頸部の手術を受けた症例

分子
分母のうち、大腿骨頸部手術後3日以内にリハビリを実施した症例

指標群
整形外科

意義
機能回復においてリハビリを早期に始めることが重要である。

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット
DPC 様式 1,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする。
2. このうち、大腿骨頸部骨折の診断を受けた症例。資源を最も投入した傷病名の ICD-10 コードが下記に含まれる症例

ICD-10 コード	病名
S7200	大腿骨頸部骨折 閉鎖性
S7201	大腿骨頸部骨折 開放性

3. このうち、大腿骨頸部骨折に対する手術が行われている症例。手術1の K コードが下記に含まれる症例。

手術コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
K0441	骨折非観血的整復術 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○	○
K046-21	観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの） 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○	○
K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	○	○	○	○	○	○	○
K0611	関節脱臼非観血的整復術 肩、股、膝	○	○	○	○	○	○	○
K0631	関節脱臼観血的整復術 肩、股、膝	○	○	○	○	○	○	○
K0811	人工骨頭挿入術 肩、股	○	○	○	○	○	○	○

手術コード	手術名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
K083	鋼線等による直達牽引（初日。観血的に行った場合の手技料を含む。）（1局所につき）	○	○	○	○	○	○	○

4. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 運動器リハビリテーションが行われている症例。E/F ファイルにおいて、下記の処置が行われている症例。

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
180027810	運動器リハビリテーション料（2）	○	○	○	○	○	○	○
180027910	運動器リハビリテーション料（3）	○	○	○	○	○	○	○
180032710	運動器リハビリテーション料（1）	○	○	○	○	○	○	○
180034510	運動器リハビリテーション料（1） （要介護）		○	○				
180034510	運動器リハビリテーション料（1） （要介護・入院外）				○	○	○	
180034610	運動器リハビリテーション料（2） （要介護）		○	○				
180034610	運動器リハビリテーション料（2） （要介護・入院外）				○	○	○	
180034710	運動器リハビリテーション料（3） （要介護）		○	○				
180034710	運動器リハビリテーション料（3） （要介護・入院外）				○	○	○	
180044030	運動器リハビリテーション料（1） （要介護）（施設基準不適合）			○				
180044030	運動器リハビリテーション料（1） （要介護）基準不適合				○	○	○	
180044130	運動器リハビリテーション料（2） （要介護）（施設基準不適合）			○				
180044130	運動器リハビリテーション料（2） （要介護）基準不適合				○	○	○	
180044230	運動器リハビリテーション料（3） （要介護）（施設基準不適合）			○				
180044230	運動器リハビリテーション料（3） （要介護）基準不適合				○	○	○	
180045810	運動器リハビリテーション料（1） （要介護・入院）				○	○	○	○
180045910	運動器リハビリテーション料（2） （要介護・入院）				○	○	○	○
180046010	運動器リハビリテーション料（3） （要介護・入院）				○	○	○	○
180052730	運動器リハビリテーション料（1） （リ減）				○	○	○	○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
180052830	運動器リハビリテーション料（2） （リ減）				○	○	○	○
180052930	運動器リハビリテーション料（3） （リ減）				○	○	○	○
180053030	運動器リハビリテーション料（1） （要介護・入院）（リ減）				○	○	○	○
180053130	運動器リハビリテーション料（1） （要介護・入院外）（リ減）				○	○	○	
180053230	運動器リハビリテーション料（2） （要介護・入院）（リ減）				○	○	○	○
180053330	運動器リハビリテーション料（2） （要介護・入院外）（リ減）				○	○	○	
180053430	運動器リハビリテーション料（3） （要介護・入院）（リ減）				○	○	○	○
180053530	運動器リハビリテーション料（3） （要介護・入院外）（リ減）				○	○	○	
180053630	運動器リハビリテーション料（1） （要介護）基準不適合・リ減				○	○	○	
180053730	運動器リハビリテーション料（2） （要介護）基準不適合・リ減				○	○	○	
180053830	運動器リハビリテーション料（3） （要介護）基準不適合・リ減				○	○	○	

2. このうち、処置が手術日以後3日以内に実施されている症例。E/Fファイルの実施年月日が手術1の手術日後3日以内である症例。

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. リハビリの禁忌患者など、対象患者が全員早期リハビリテーションの適応になるとは限らない。

参考資料

参考値

参考資料

1. 日本整形外科学会, 日本骨折治療学会. 大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドライン 改訂第2版. 南江堂. 2011